

CLOSE UP!



胃がん・大腸がんに対する ロボット支援下手術

平成30年4月から、胃がんや大腸がんに対するロボット支援下内視鏡手術が保険適用となり、多くの患者さんに実施できることとなりました。今回は、当院が導入している『Da Vinci Xi (通称:ダ・ヴィンチ)』という手術支援ロボットを使った胃がん・大腸がんの手術についてご紹介します。

● ロボット支援下内視鏡手術とは

近年では腹腔鏡下手術や内視鏡下手術の技術や器材の進歩により、低侵襲で安全な外科的処置が普及してきました。ロボット支援下手術では、内視鏡下手術と同様に、腹部に8mm~12mmの穴を5箇所開け、そこから鉗子という器具を挿入し、内臓の切除などを行います。3Dモニターによって立体的に術野を見ながら、手ぶれがない状態で、自由自在な操作が可能(関節機能)であり、ミリ単位の血管もより正確に取り扱うことが可能です。



体内に挿入する
鉗子



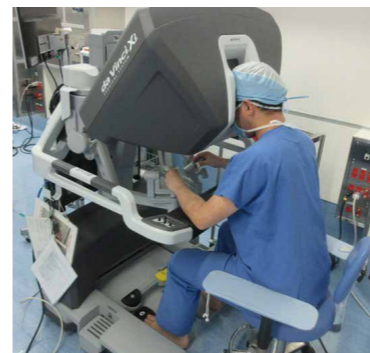
ダ・ヴィンチを用いたロボット支援下手術の様子

患者さんへ一言

われわれは、チームとしてクオリティの高い・精密な手術を提供します。“患者さんに優しい低侵襲医療”を提供するため、常に新たな技術を追い求めています。ロボット支援手術の詳細や合併症などのリスクについては全てご説明しますので、ご相談ください。

● 徳島大学病院での取り組み

徳島大学病院の消化器・移植外科では、かねてより胃がん・大腸がんのロボット支援下内視鏡手術の導入に取り組み、昨年度より保険適用となりました。これにより、多くの患者さんが、より安全な低侵襲手術を受けられるようになりました。ダ・ヴィンチの支援下で行う胃がん手術は、合併症の発症が少ないというデータがあります。特に当院では、「出血量の少ない低侵襲な手術」に取り組んでおり、ダ・ヴィンチを用いた手術において、手術中の出血量は平均10ml程度です。当院の消化器・移植外科には、腹腔鏡下胃癌・大腸癌手術を専門とする日本内視鏡外科学会技術認定医(胃・大腸)が6名在籍しており、その中で、さらにロボット手術のトレーニングを受けた医師が、ロボット支援下内視鏡手術を担当します。

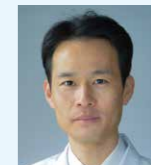


コンソールでの
ロボット操作の様子

【お問い合わせは】徳島大学病院 外科外来 TEL/088-633-7136

徳島大学病院消化器・移植外科 ロボット支援下手術チーム

胃がんチーム



講師
吉川 幸造



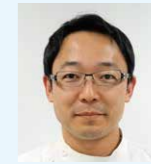
総務医長
西 正暁



病棟医長
徳永 卓哉



外来医長
柏原 秀也



特任助教
宮谷 知彦

大腸がんチーム